J-STAGEの概況について

平成29年3月16日

知識基盤情報部

科学技術振興機構

Japan Science and Technology Agency

J-STAGEの来歴

日本の科学技術刊行物の電子化と流通促進

1999年　J-STAGE
ジャーナルの電子化による情報の発信と流通の迅速化を目的としたプラットフォームとしてサービスを開始

2003年　J-STAGE2
横断検索機能、My J-STAGE機能、早期公開、全文HTML公開などの機能を追加

2005年～2011年
学協会誌について創刊号まで遡って電子化し、169万論文を公開

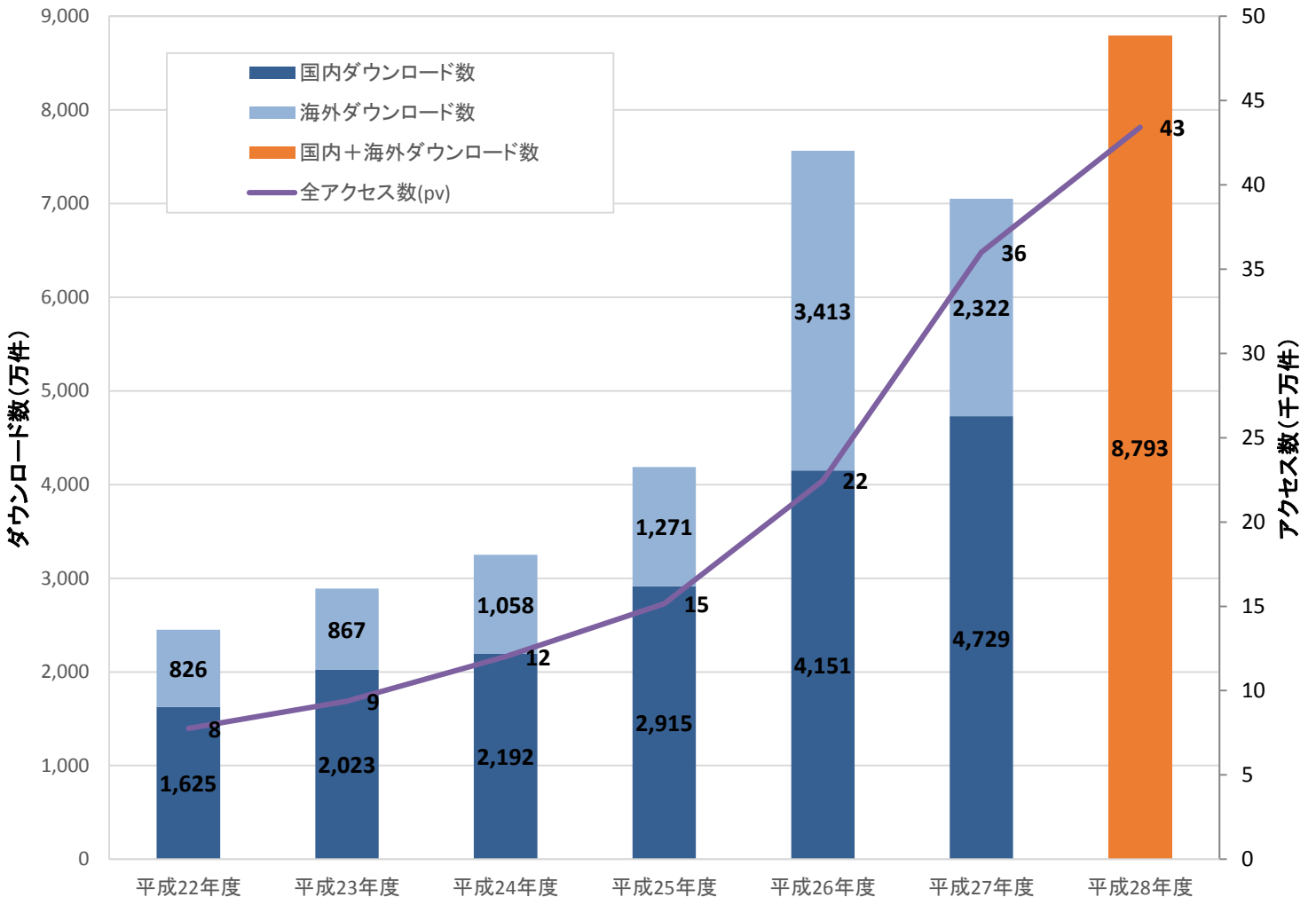
2012年　J-STAGE3
Journal@rchiveサイトとの統合、デザイン・ユーザーインターフェースの刷新、データ形式を国際標準であるXML方式へ移行、購読・販売管理機能の強化などの改革を実施

2015年11月　登載対象コンテンツ拡大・Web登載機能追加
2016年　ELSデータ移行を開始
評価版の開発（公開インターフェース改善）

国立情報学研究所電子図書館事業（NII-ELS）の終了

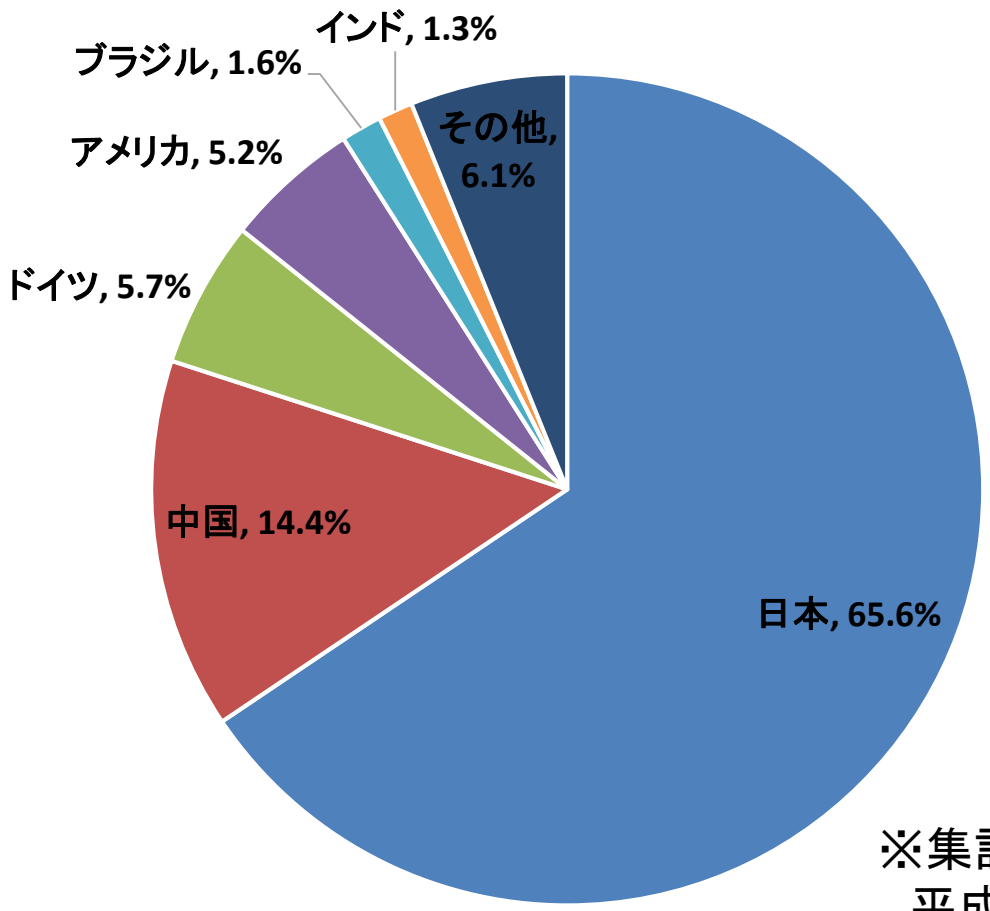
主に査読付き論文誌を中心に登載

ダウンロード数・アクセス数の推移



※平成28年度は1月31日時点
※平成26年度の大幅な件数増は海外の利用者の一時的な大量利用によるものであり大量利用分を除いた件数は5,880万件

国別ダウンロード割合



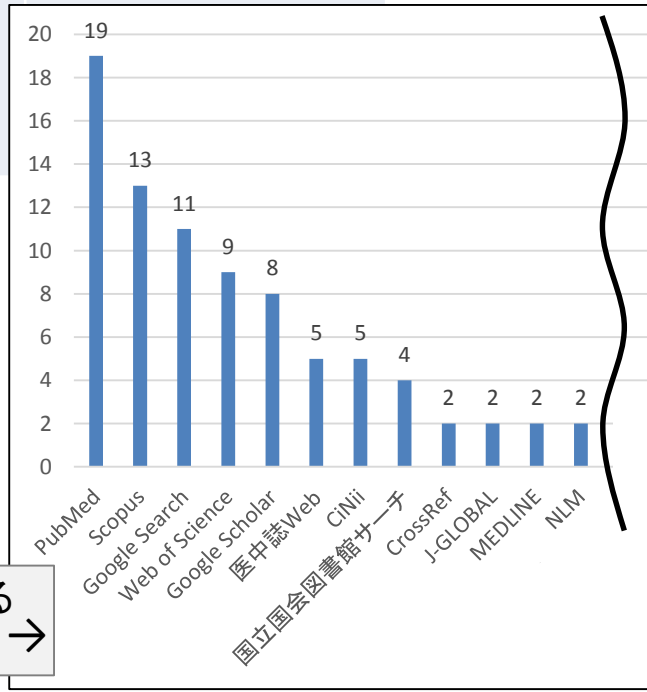
※集計期間:
平成28年4月～平成29年1月

外部連携先一覧

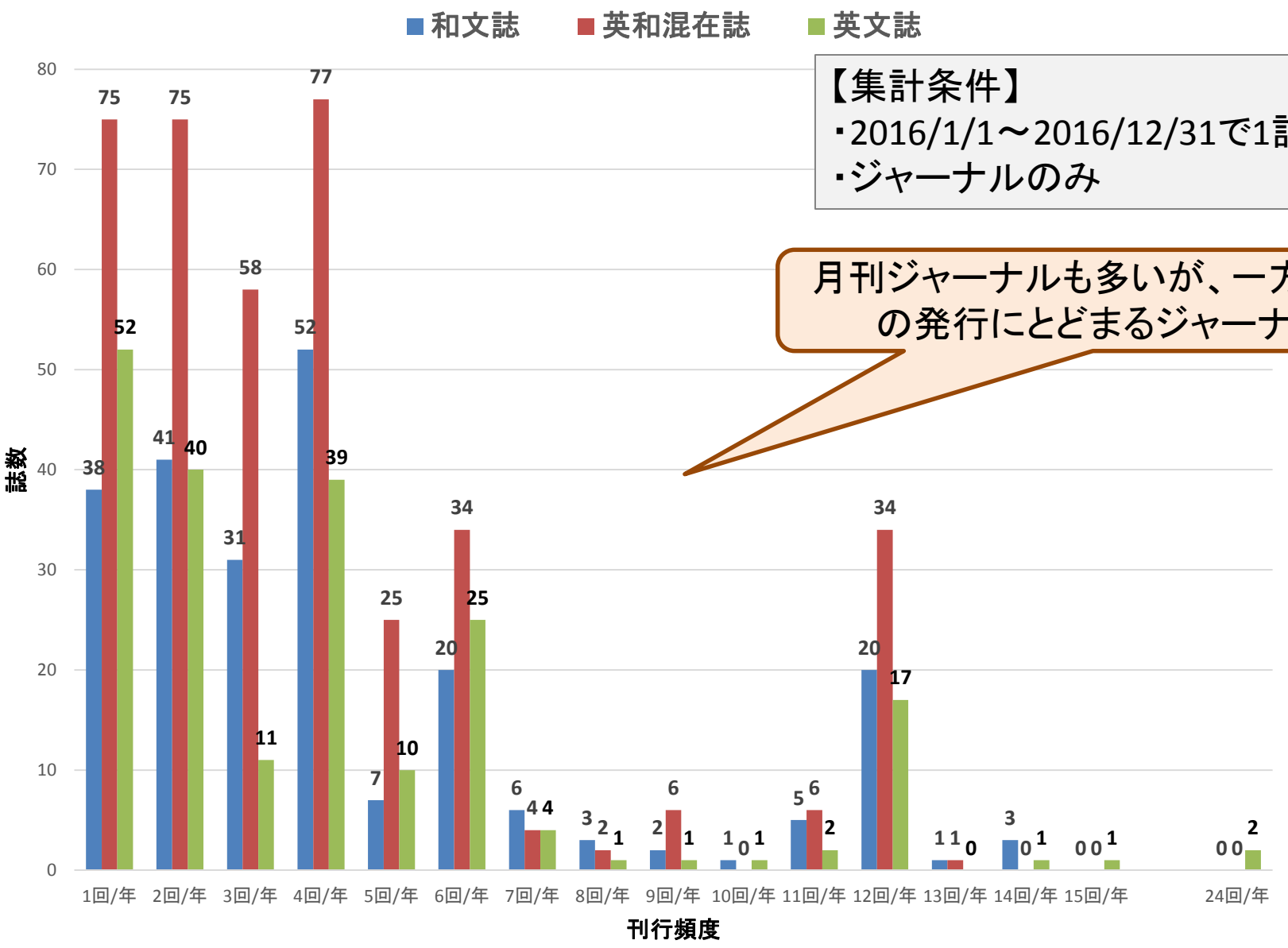
J-GLOBAL	NBDC	JDreamⅢ	Google サーチ	Google Scholar
Scopus	CAS Full text Options	Crossref	CiNii	国立国会図書館サーチ
東日本大災害アーカイブ	PubMed	医中誌Web	WPRIM	NDSL
TRID	Summon	PrimoCentral	EBSCO Discovery Service	

- 現在19の外部サービスと連携
- J-STAGEでの記事公開にとどまらず、外部サービスからも検索、閲覧できるようにすることで、国内・海外からの閲覧機会が向上
- 引き続き既存連携サービスとの連携強化、および新規サービスとの新規連携を予定

H28年度満足度調査「J-STAGEがどの論文掲載サイト、論文検索サイトと連携を強化する（あるいは新規に連携する）とより情報発信できると感じますか。」の回答結果 →



刊行頻度（2016年）



【集計条件】
・2016/1/1～2016/12/31で1記事以上公開
・ジャーナルのみ

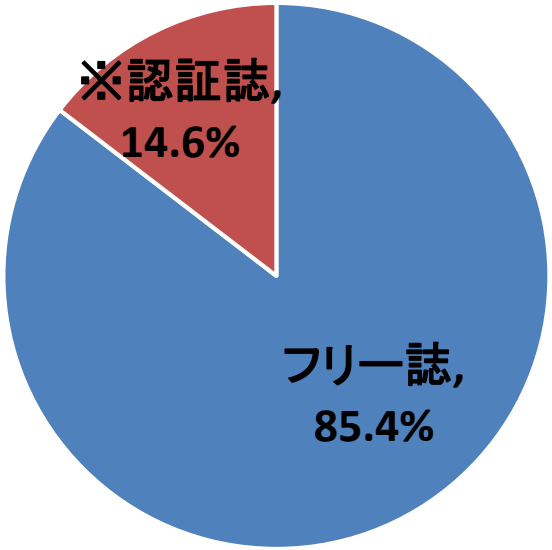
月刊ジャーナルも多いが、一方で年に1,2回の発行にとどまるジャーナルも多い

フリー誌・認証誌の割合

J-STAGEでは記事のフリー公開を強く推奨

「本サービスは、～（略）～　電子化された科学技術刊行物の国内及び国際的流通を促進するとともに、**オープンアクセスを推進する情報発信・流通基盤としての役割を果たすことを目的とするものである。**」

（J-STAGE利用規約より抜粋）

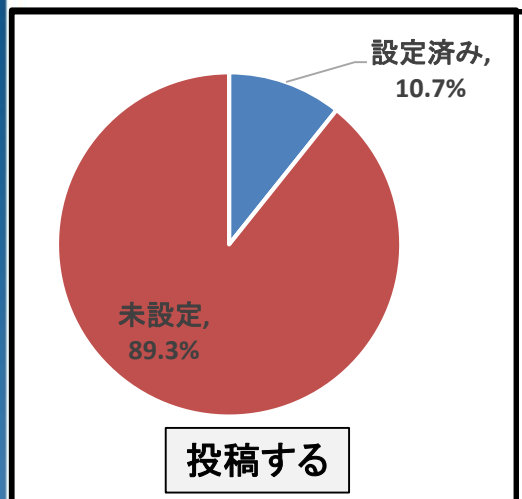


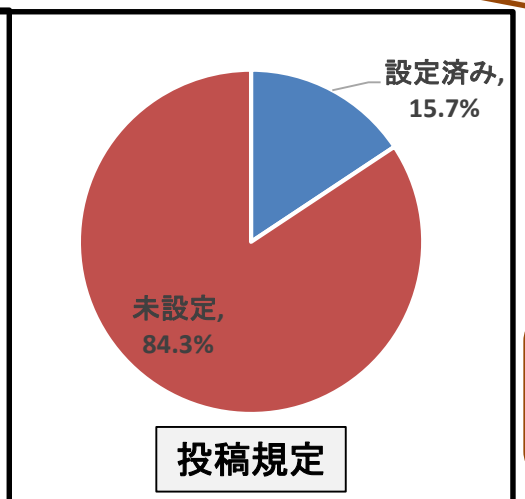
※認証誌も概ね1～2年で記事の認証が解除される状況

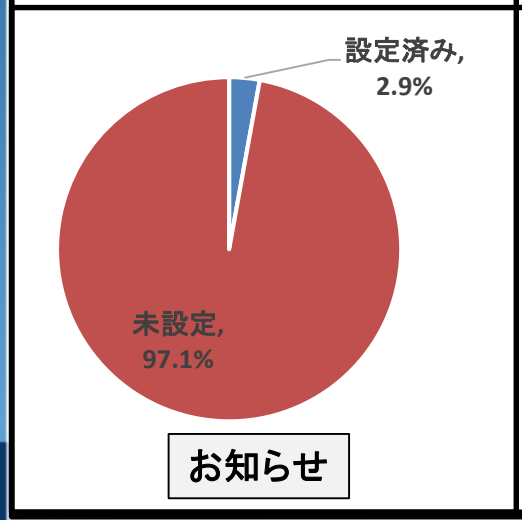
平成29年度は「オープンサイエンス時代に対応したジャーナル出版のありかた」を年間テーマに、数回セミナーを開催予定
⇒4月4日に「オープンアクセスジャーナルに求められることとは」を開催予定。Tom Olijhoek氏（DOAJ）、Dugald McGlashan氏（INLEXIO）による講演。
＜詳細＞　https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/AY04S260_ja.html#170301

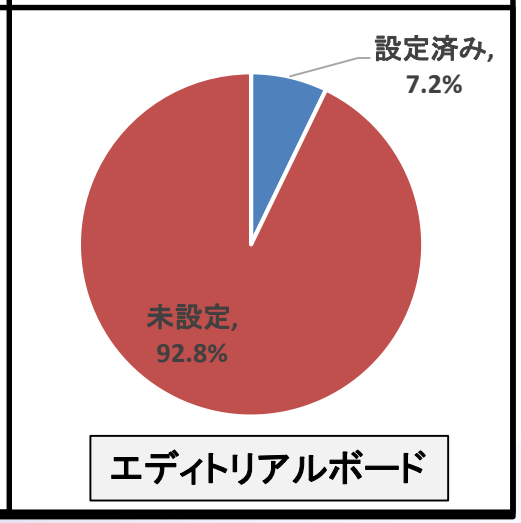
グランドメニュー設定状況

・資料トップページの上部に表示可能
・設定は編集登載より可能
サービス管理 >サイト編集（資料個別）> グランドメニュー編集
マニュアルはこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S220.files/UM-01-005_sousa(service).pdf

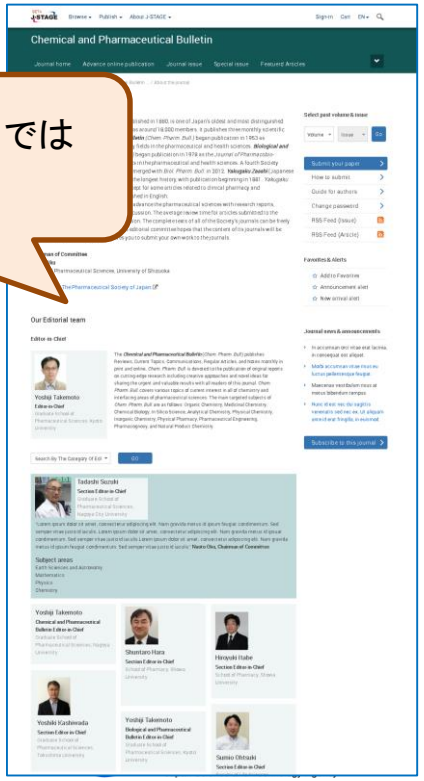








新画面J-STAGE（詳細はP.8）では
より視覚的に表示可能



J-STAGE評価版について

概要

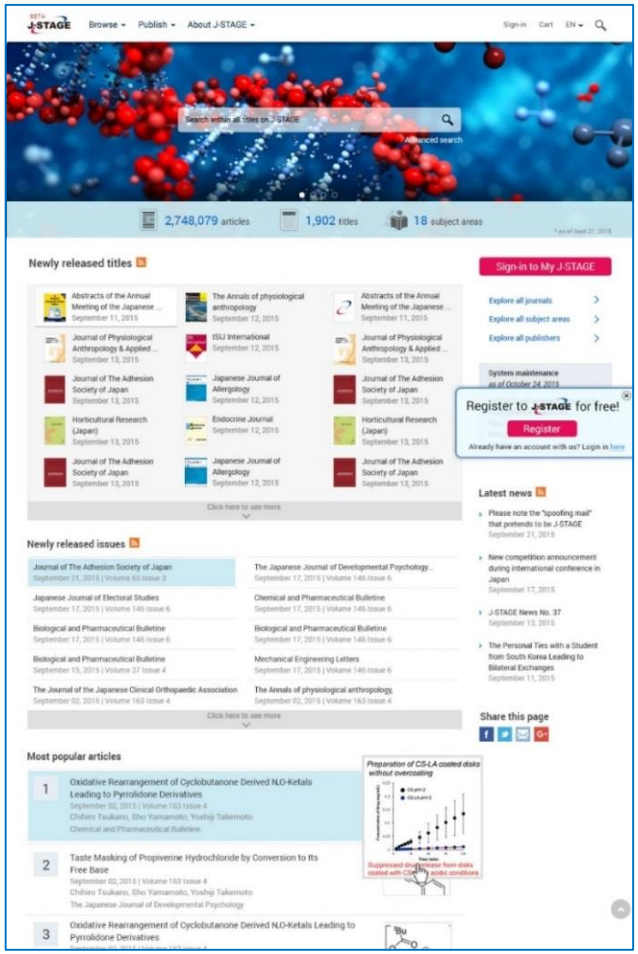
・国際発信力強化を目的に、画面インターフェースを一新したJ-STAGE評価版を試験的に公開（平成28年5月18日～）
・開発にあたっては海外のジャーナルプラットフォームを参考にし、見やすく、使いやすいデザインとしている
・利用者からFeedbackを広く受け付け、次期J-STAGE開発に向けて更なる改修をおこなっている

J-STAGE評価版サイト https://jstagebeta.jst.go.jp/

J-STAGEセミナー資料「国際発信力強化のためのJ-STAGE・新画面インターフェース活用方法」
https://www.jstage.jst.go.jp/pub/html/pdf/AY04S260.files/161130seminar2.pdf

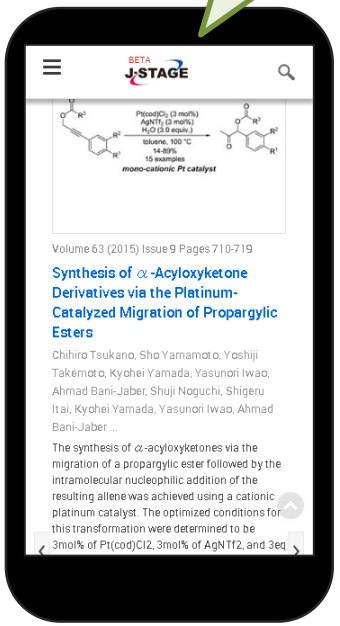
平成28年5月～
・評価版公開（モデル誌3誌のみ試験公開）
↓
平成29年3月末（予定）
・評価版のデザインを一新（フィードバック反映版、引き続きモデル誌3誌）
↓
平成29年度中（予定）
・現行J-STAGEに評価版デザインを反映（全誌に適用）

・おすすめ記事紹介や編集委員の紹介、投稿関連の情報を充実して載せることでジャーナルの特徴や査読の透明性をアピールしやすくなる



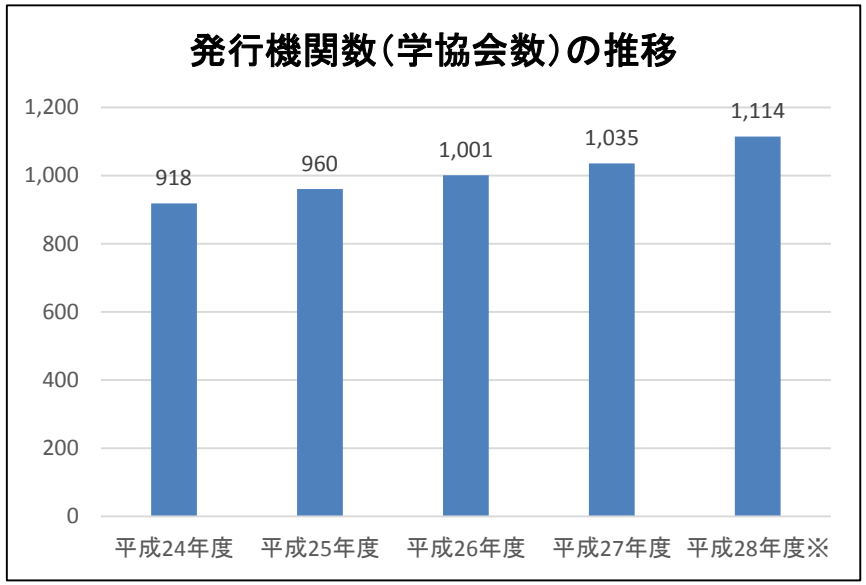
トップページ

スマホ・タブレットに対応



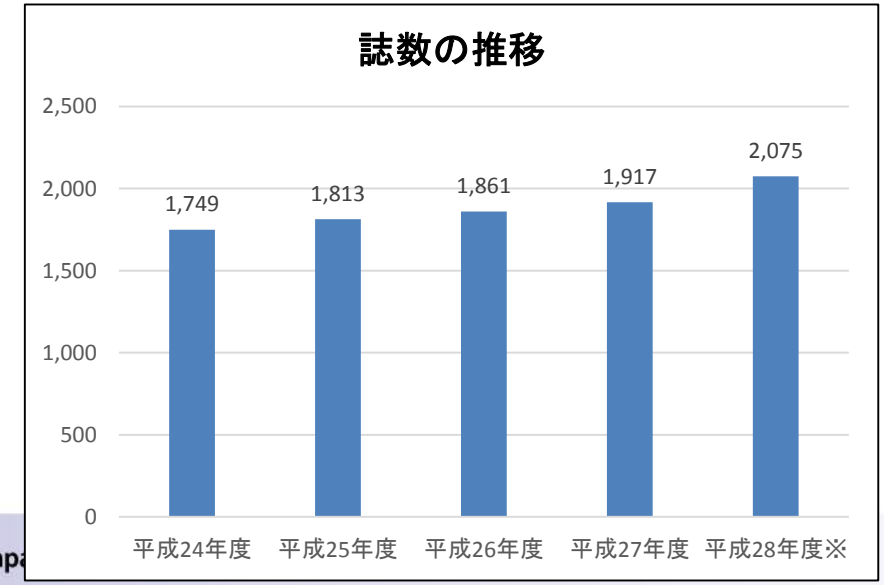
資料ページ（モバイル）

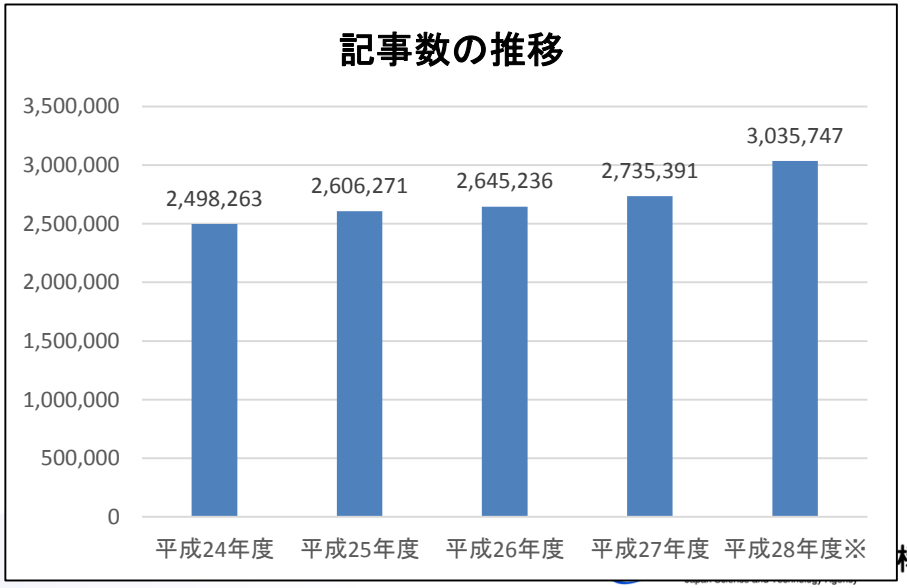
発行機関数・誌数・記事数の推移



・わが国の学協会の約半数が利用
（参考：日本学術会議の活動に協力する「協力学術研究団体」を中心に、我が国における主要学術団体を掲載する学会名鑑に収録されている学協会数2,009件 平成29年3月3日現在）

※平成28年度は3月2日時点





誌数・記事数・分野の内訳

平成27年11月よりコンテンツ拡大

・誌数・記事数の内訳※

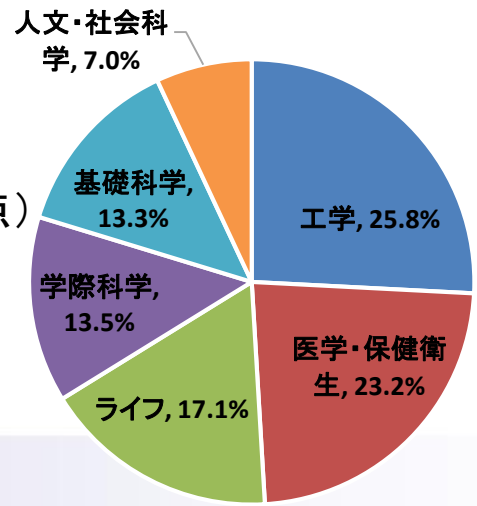
	ジャーナル	会議論文・要旨集	研究報告・技術報告	解説誌・一般情報誌	その他
誌数	1,921	137	12	5	0
記事数	2,712,813	321,761	693	480	0

・コンテンツ拡大以降の採択状況（公開を開始していない資料も含む）※

	ジャーナル	会議論文・要旨集	研究報告・技術報告	解説誌・一般情報誌	その他
誌数	471	98	68	11	11

※平成29年3月2日時点

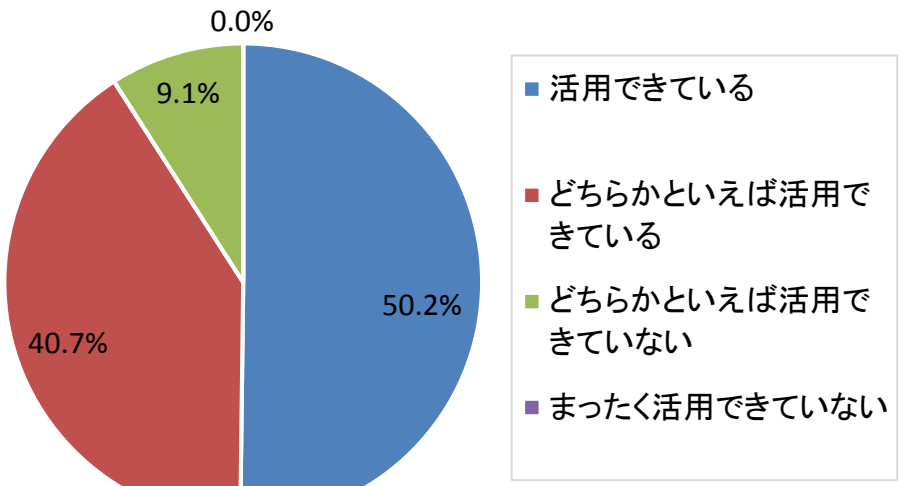
・収録誌の分野
（平成29年2月28日時点）



満足度調査アンケート結果（抜粋）

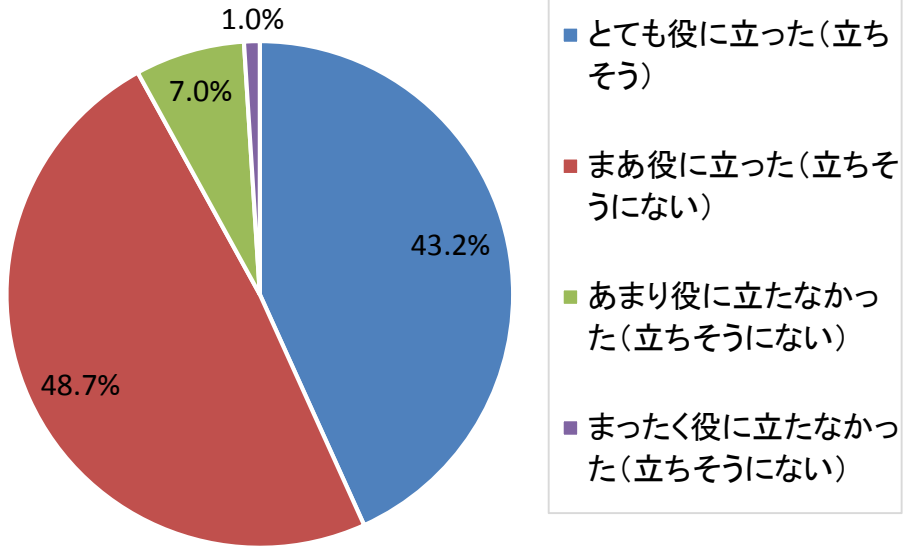
発行機関向けアンケート

「貴誌はJ－STAGEを活用できていると思われますか」



閲覧者向けアンケート

「J－STAGEは役に立ちましたか。または、役に立ちそうですか」



発行機関の**91%**が活用できていると回答。また閲覧者の**92%**が役に立っていると回答。

ご清聴ありがとうございました。